

# ミステリ読書案内

2023. 3. 22 発行元

第459号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 有栖川有栖「捜査線上の夕映え」

昨年1月に文藝春秋から出た本。『このミステリーがすごい!』の年間ランキングでは第三位という評価だった。ようやく読んだので、その感想を含めて紹介をしたい。『火村英生シリーズ』の最新長編となる作品。

### 火村英生シリーズの長編 (実際は短編集の方が多い)

1. 46番目の密室
2. ダリの繭
3. 海のある奈良に死す
4. スウェーデン館の謎
5. 朱色の研究
6. マレー鉄道の謎
7. 乱鴉の島
8. 鍵のかかった男
9. 狩人の悪夢
10. インド倶楽部の謎
11. 捜査線上の夕映え

### 「火村英生シリーズ」30年

右上に有栖川有栖の『火村英生シリーズ』（『作家の有栖川有栖シリーズ』とも呼ばれている）の長編作品を並べてみたが、最初の『46番目の密室』からもう30年になるという。時間が経つのは速いものだ。エラリー・クイーンを強く意識した初期の作品と比べるとかなり変化してきたなどと思うところもある。

『別冊文藝春秋』に連載したもので、単行本で450ページ。それなりの大作である。前半はテンポが上がらない。事件の分析が前進しないので冗長に感じる部分もある。調子が出てくるのは中盤を過ぎてから。

### 大阪のマンションでの殺人

事件は大阪のマンションの中で起きた。コロナ禍の流れの中ではちょうどGoToトラベルの時期。緊急事態宣言が一区切りついた時に元ホストクラブに勤めていた奥本栄仁という人物が御影石の置物で撲殺された後、スーツケースに押し込まれた形で発見されたというもの。

防犯カメラの映像は、皆マスク姿で人物がわかりにくい。容疑者は限られているのだが、それぞれにアリバイが成立しているように見えるのだ。街での人出の少なさとか、旅行も遠慮しがちになる情勢とか、コロナ禍を生かした設定。

臨床犯罪学者・火村英生とミステリ作家・有栖川有栖は普段どおりの登場である。有栖が冒頭で昨今の「本格ミステリ」について感想を述べている。「特殊設定ミステリ」流行りの現象は「誠にその通り」というしかない。まあ、有栖川有栖がSF絡みの「特殊設定ミステリ」を書くとは思わないので、その点は余計な想像はしないで済むけれども。

### 警察小説のような展開

今回の事件は「なぜスーツケースに死体が入れられていたのか？」の点を除けば、ごく普通の殺人に見える。犯人側がしかけたトリックがあるようには見えないのだ。なので、警察の捜査の積み重ねが中心に話が進む。その意味では「警察小説」に近いと感じる。アリバイが崩せず

に四苦八苦している捜査陣。

作者が本作品で書きたかったのは第五章に入ってから部分。大阪での捜査から飛び出して舞台ががらりと変わる後半。本文中では「ファンタジー」と表現されていて、本の帯では「圧倒的にエモーショナル」と書かれているところ。

事件の背景に重点が移行し、火村+有栖でなくとも、警察の捜査でも到達できそうな内容になっていく。火村+有栖が自ら手掛けることによって関係者への穏やかな配慮ができたというところか。現代風のミステリの傾向に合っているということだとは思いますが…。

私としては「名探偵」が名探偵としての役割を果てしてくれる展開の方が有難い。「理詰め」の「本格もの」がいいなあ。

### 中山七里「鑑定人 氏家京太郎」

昨年1月に双葉社から出た本。『小説推理』に連載された後、単行本になった。しばらく中山七里の新作を取り上げていなかったなあと思って本書を選んだ。今回は民間の立場で科学捜査鑑定を行う者から、警察の捜査や裁判に臨む検察への疑問点の提示の形。

東京、埼玉、千葉で連続して若い女性を狙った猟奇殺人事件が起きた。やがて犯人と思しき人物が捕らえられた。その弁護を引き受けた吉田弁護士から「氏家鑑定センター」所長の氏家京太郎に連絡が入る。逮捕された人物は2件については「自分がやった」と認めているけれども、最後の事件は「自分ではない」と主張しているという。警察から裁判に回った書類には「遺体に附着していた体液と犯人のDNAが一致した」という一枚の鑑定結果通知書しか付いておらず、具体的なデータは一切示されていないという。吉田弁護士は氏家に最後の事件の犯人は別人だということを証明する方法はないだろうかかと相談する。警視庁科捜研の動きに引っ掛かりを感じた氏家は、どこかに試料が残されているのではないかと活動を開始する。氏家はかつて科捜研に所属していたが、真実を求めて行動したことが内部での批判の対象になり、退職した過去があった。不可能に見える証明をどうやって引き出すのか…。中山七里得意の「どんでん返し」が今回も鮮やかに決まる。